

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4675200127
法人名	株式会社 JOY
事業所名	グループホーム「いこいの里」花いちもんめ
訪問調査日	平成 21 年 6 月 30 日
評価確定日	平成 21 年 8 月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4675200127
法人名	株式会社 JOY
事業所名	「いこいの里」花いちもんめ
所在地	鹿児島県姶良郡加治木町木田4844-4 (電話) 0995-62-2983

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年6月30日
評価確定日	平成21年8月3日

## 【情報提供票より】平成21年6月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 10 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	8.25 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000円 (光熱費)	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	加治木温泉病院
---------	---------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

九州自動車道の加治木インター近くに、関連施設の病院や老人ホームがある一角に職員寮の1階を改装して花いちもんめが開設され10年が過ぎようとしている。利用者と家族のふれあう場や意見を引き出す機会として運営推進会議や家族会などを行い、どんな些細なことにも耳を傾ける姿勢を持っている。地域との交流も自治会長や民生委員と協力し、独居老人を食事会に招いたり夏祭り、保育園児との交流、敬老会に参加するなど、地域の方々からの相談にも気軽に応じアドバイスをしている。地域に根ざした活動から住民や家族から信頼され、なくてはならない存在となっているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での課題は重度化や終末期に向けた方針の共有で、事業所としての重度化や終末期における対応の指針を作成し、入居の際には家族より同意書も得るなど、改善されている。家族の意向はその都度確認するようにしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表を職員全員に渡し、ケアについての内容に○×で評価してもらい、△については内容を確認し3ヶ月ぐらいかけてまとめている。職員はケアについての振り返りの機会とし、自ら研修に参加したいと申し出るなど意識の向上に繋がっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議の開催は家族全員に知らせ、家族、公民館長、民生委員、行政担当者が参加し、ホールで行われるため職員、利用者も同席している。多くの意見を頂くため、緊張した雰囲気にならないよう工夫している。消防署に避難経路の確認をしてもらい、夜勤時の避難経路確保の意見交換が行われ、各居室から庭に出れるようスロープを作るなどのアイデアが運営に活かされている。職員も外部の意見を直接聞くことで刺激になっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者、職員は家族の些細な事にも耳を傾ける姿勢を持ち、運営推進会議や年2回の家族会、アンケートなども行いながら、家族が意見を表す機会を作っている。事業所内には苦情委員会も作られ、出された意見については話し合い情報を共有し運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、自治会長や民生委員の協力を得て、独居老人を食事会に招いたり、地域の高齢者の相談にのったり、地域の敬老会、保育園児との交流、関連施設合同の夏祭りにも多くの地域の方が来られるなど、活発に交流している。また、事業所の庭を開放し、ブッククルージングを行うなど積極的な取り組みを行っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	豊かな自然と安心な環境の中で、個人の思いを大切に地域の協力を得ながら地域の方々と共に過ごせることを目指した、事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の方を招く事が多くなり、職員の意識も高まり利用者の身づくろいに気を配り、声かけに注意を払うようになってきたことで利用者の笑顔も増えているなど、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の敬老会、ゲートボールに参加したり、地域の高齢者が作った野菜を買いに行ったりしている。また、事業所に独居高齢者を食事に招いたり、庭を開放してブッククルージングを開いたり、夏祭りや保育園児との交流など積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を職員全員に渡し、自己評価○×を書き込み、△については内容を聞きながら3ヶ月位かけ作成している。職員はケアを振り返る機会とし、自ら研修に参加したいと申し出るなど意識の向上に繋がっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催日は全家族に知らせ多くの家族が参加している他、公民館長、民生委員、行政担当者、ホールで行う為、利用者や職員も同席している。事業所の状況報告後、夜間時の避難経路の確保についての意見交換が行われ、各居室にスロープをつけるなどのアイデアが活かされている。		

鹿児島県 グループホーム 花いちもんめ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターと連携し、管理者、計画作成担当者、サポーターの研修を行っている他、定期的に情報交換を行っている。保険課には出向いて行き相談することもあり、連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、領収書と花いちもんめ便りに健康状態、食事の摂取状況、日頃の様子などを記載し家族に送付している。金銭出納帳は、面会時に確認してもらいサインをもらっているが、面会に来れない家族には出納帳をコピーして送っている。職員の異動については、運営推進会議で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回行われ、運営推進会議も全家族に案内し、年1回アンケートを行うなど家族が意見を表す機会を多く作っている。事業所内には苦情委員会も作られ、家族のどんな些細なことにも耳を傾けようとする姿勢である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の異動はなく、離職者も少ないので馴染みの職員の支援が受けられている。管理者は、職員が夜勤でのストレスを抱えないように注意を払い、定期的に食事会などを行って離職を抑えるよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、看護師による緊急時の対応の仕方を実技したり、感染・苦情・身体拘束の委員会主催での勉強会、事業所内での認知症事例検討会、外部研修を受けた職員による伝達講習などが行われている。町主催の介護研修も3ヶ月に1度行われ、職員は交替で参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区GH連絡協議会に参加しているが、管理者、リーダー研修が多いため、始良・加治木・蒲生の3地域が集まって職員の研修に取り組んでいる。3地域でグループホームツアーを主催し、自分の事業所のアピールをしながら、それぞれのホームを回り、交流する機会を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	民生委員、入居家族からの紹介なども多く、いつでも見学してもらっている。入居前には、家族と本人に来てもらい、お茶を飲みながら事業所の雰囲気に馴染んでもらえるようにしている。入居後外に出たがる時には、職員と一緒に散歩してお地蔵様に手を合わせてくるなど寄り添うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の様子を観察し、気分転換が必要と感じる時にはお茶を飲みながら寄り添い、昔の話を聞いて共感したり、一緒に散歩しながら大きな声で歌を歌ったり、畑の野菜の肥料が足りないことを教えてもらうなど、さまざまな場面作りをしながら支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族から思いや意向のアセスメントを行っている。入居後は受け持ちの担当職員が、気づいた事を書き込む書類を綴っている。自分達の判断のみに走らないように、利用者の言葉や態度、顔色などに注意を払うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	訪問調査があった場合には、関係者が集まり担当者会議を行っている。介護計画書は、担当職員が利用者の夜間、昼間での問題点を書き込んだファイルから、計画作成担当者が拾い上げ家族の意向を確認しながら、医師の照会回答を参考に関係者の意見をまとめて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者は、受け持ちの担当職員が利用者に対する問題提議がされているかを確認し、2ヶ月に1回の検討会で話し合い、問題が浮き彫りになるように気をつけている。変化があった場合は、すぐに対処し見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	主治医と24時間オンコールできる体制が整っており、日頃は看護師2名により健康管理を行っている。また、本人や家族の要望に応じて通院介助、墓参り、地蔵参り、外泊など柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医での受診支援を行い、事業所はかかりつけ医と情報交換を行い適切な医療が行われるように支援している。定期受診での内容に変化があった場合には、家族に情報を伝達し共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における対応について事業所としての指針を作成し、契約時に家族に説明し同意書を得ている。重度化した場合や急変した場合にはその都度、主治医を交えて関係者が話し合い、方針を全員で共有するようになっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員にどのような言葉をかけたらよいかを問いかけ、考えさせるようにしており、職員から「ちょっと待ってください」の言葉をやめようと言う意見があがり、「今、いきます」の言葉にかえて対応するなど、職員の意識も高まってきている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを崩さないため、大まかに食事時間などは決められているが、朝ゆっくり起床される方、夜、9時までテレビを見る方、買い物を希望する方、温泉の家族湯に行かれる方など、一人ひとりのペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当者には、味付けの上手な職員を配置し、食物繊維の多い食品を使う工夫をしている。利用者は庭の野菜を撰って来たり、下ごしらえや後片付けなど力量に応じて手伝っている。3時のお茶には利用者の意見を聞き、誕生日に好きなメニューを提供するなど、楽しめるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、月水金、火木土で支援しているが、状況に応じて対応している。拒否される方には、声かけのタイミングをずらしたり、職員を替えたりと工夫しているが、どうしても難しい時でも清拭・足浴はしている。入浴の好きな方には、温泉の家族湯に連れて行き楽しんでもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干し、シーツ交換の手伝い、茶碗ふき、調理の手伝いなどの役割を持ってもらっている。レクリエーションで楽しそうに歌う利用者の姿を見て、家族が電子ピアノを贈って下さり、ピアノを弾いたり、花を活けたり、季節毎の行事の作品づくり、散歩、花見、温泉、保育園児との交流など楽しみ事、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を兼ねて野菜販売所で野菜を買ったり、おやつを買いに関連施設の売店に行ったり、お地藏さん参り、車椅子で近所を散歩など、いつでも戸外に出られるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関に鍵をかけず見守りをしているが、どうしても職員が手薄になった時に出て行かれることを家族が心配するので、時間帯によっては鍵をかけることもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下、関連施設と合同で年2回の消防訓練を行っている。自動通報装置も設置され、上階の寮生や自治会にも協力をお願いしている。避難経路の確認もされており、すべての居室から庭にでられるようにスロープが設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は1400Kcal、水分は1600cc～1700ccを目安に、食事の他朝と夕にホットミルク、夜間には麦茶を準備し支援している。水分は24時間の尿量と水分摂取のバランスをみて気をつけている。栄養のバランスについては、関連施設の栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式のキッチンからは、ご飯の炊ける臭いや野菜を切る音が聞こえ家庭的である。リビングのソファは利用者の座る位置が決まっており、広い廊下にも椅子を置き、仲良し組みが座って龍門の滝見物をすることもある。リビングに空気清浄器を設置したり、廊下の照明が夜は明る過ぎるので布をまくなど、工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳の部屋もフローリングにしてあり、備え付けのベットのリネン交換を週に1回行っている。居室には、使い慣れた時計や写真、ぬいぐるみ、神棚などが持ち込まれ安心して眠れるようにしている。また、ベットしたにセンサーを付けて転倒防止に努めるなど工夫している。		